

令和4年2月2日

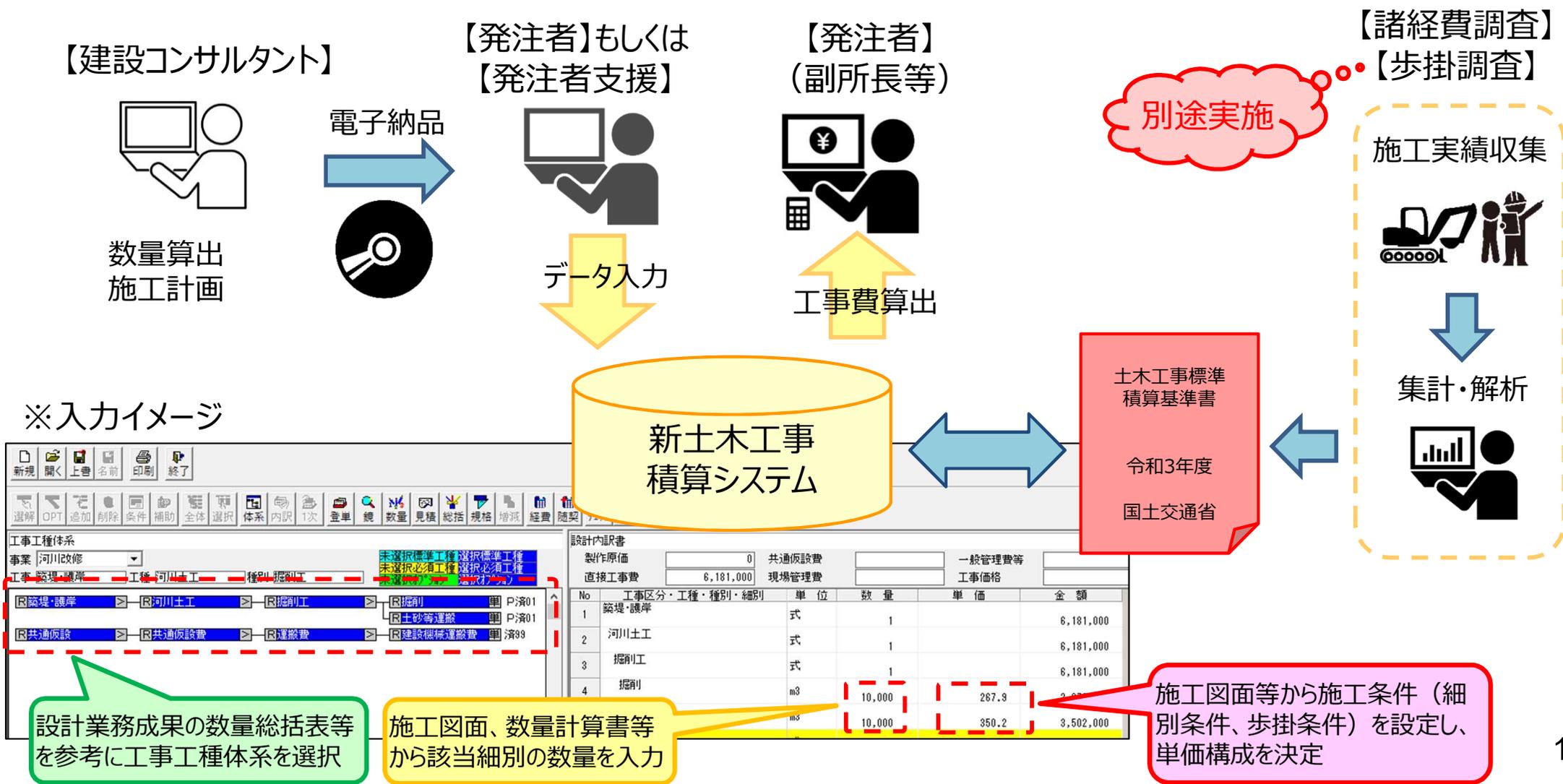
発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会
建設生産・管理システム部会（令和3年度 第1回）

資料4-1

3次元データの活用に向けたDXの取組 （積算システムの今後）

現在の積算システムの課題

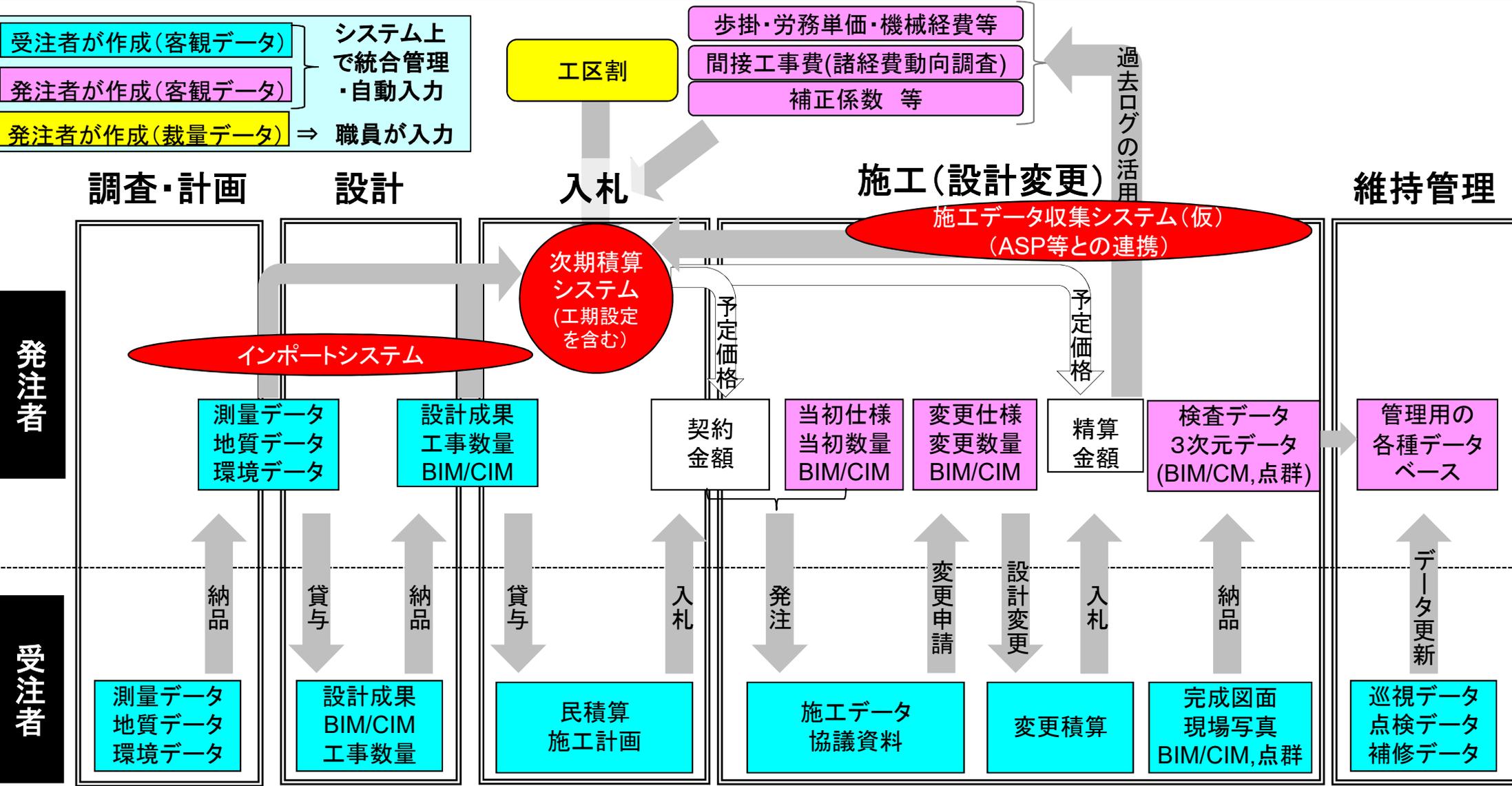
- 積算段階で発注者がコンサル成果から数量や条件をシステムに手入力
 - ⇒コンサル成果(数量や条件)をインポートする機能が無いため、必要項目を全て手入力する必要
- 工事実績データと連携していないため別途調査を実施
 - ⇒積算基準改定に必要な工事実績データ(施工実績、経費等)を、施工者から別途収集する必要



次期積算システムの改定に向けた検討

○各種データがデジタル化される中、現在の積算システムは職員が手作業でデータを入力しているため、繁忙期等には違算や作業日数の超過等により事業執行に影響が生じる可能性がある。

⇒次期積算システムでは、デジタルデータを統合管理・自動入力することで、**違算防止や作業日数の縮減が可能。**



⇒将来的に、積算の効率化を目的としてBIM/CIMをベースとした積算体系への移行について検討。

<参考> 官庁営繕における営繕積算システム(RIBC2) 国土交通省

○官庁営繕で使用されている営繕積算システム(RIBC2)では、発注者と設計・積算事務所等(コンサルタント)が同じ積算システムを使用し、工事費を算定
 ○標準単価作成システム及び内訳書作成システムはコスト研と利用者が個別に契約を締結
 ⇒コンサルタントが直接入力したデータを活用し、積算作業の効率化やミスの防止が可能。

